

チームで構築する学校救急体制 ～連携シミュレーションの重要性～

檜垣 高史^{1,2,3,5}、木下 輝来^{1,2}、柏木 孝介²、宮田 豊寿²、千阪 俊行²、太田 雅明²、
江口真理子^{1,2,3}、田代 良^{2,4}、森谷 友造^{3,4}、高橋 昌⁵、太田 邦夫⁵

¹愛媛大学大学院医学系研究科 地域小児・周産期学講座

²愛媛大学大学院医学系研究科 地域小児科学講座

³愛媛大学病院 移行期・成人先天性疾患センター

⁴愛媛県立新居浜病院 小児科

⁵愛媛県立中央病院 小児科

⁶日本小児循環器学会 蘇生科学教育委員会

【背景および目的】

学校管理下における子どもの突然死の予防は学校保健上の重要な課題である。

子どもたちを突然死から守るためには、①学校心臓病検診の精度の向上と、②AEDの複数・有効設置を含めた学校救急体制整備、③経験事例・事故分析などの情報共有、そして④教育と医療と消防と行政などと連携した事故を想定したシミュレーションが重要である。愛媛県における学校現場での取り組みについて報告する。

A【学校心臓病検診に、心エコーとレクチャーを導入】

突然死を起こす疾患の中には、現行の心電図検査による学校心臓病検診だけでは、抽出できない疾患があるので、全員に対して心臓超音波検査を導入した。

それと同時に、心エコーで「自分の心臓を診てみる！」体験実習と、中学生には命の授業も行っている。

B【学校救急シミュレーション研修】

実践的な学校救急シミュレーションを、地域の消防、教育委員会、小児循環器学会の蘇生科学教育委員会などの協力のもとで行っている。仮想事故現場を、運動場または体育館、特別教室などに設定して、シミュレーションは養護教諭を中心に企画し、教職員、児童・生徒、PTA参加型で実施している。

【考察】

A、Bの取り組みについて、シミュレーションの前後における教職員と生徒の知識や意識の変化について評価した。生徒の回答では、「1番近いAEDを取りに行く自信がありますか？」という質問に対して、全員が「はい」と回答した。3年生の動きを見て真似て、自主的に情報収集し、後輩への的確な声掛けができるようになり、学年が上がるにつれて「守る側」でもあるという意識が上昇している。

教職員の回答では、「目撃者のいる心肺停止は、100%救命できる可能性がある」という質問に対して、シミュレーション後の調査では全員が「はい」と回答した。また、生徒の訓練だけでなく、教職員にとっての訓練でもある。経験を繰り返すことが大切。毎年、救急シミュレーション訓練は必要である。などと回答した。

【結語】

学校救急体制の充実を目指すためには、胸骨圧迫とAEDを中心とする講習から、チームによる連携トレーニングに発展させることが重要である。学校での死亡事故は突然死が最も多く、学校で時間（秒）を争う出来事が起こることを伝え、小児循環器医は、専門家として蘇生教育に携わっていくことが重要である。